

●シンガポール日本語教育国際会議 2017

(2017年12月8日, シンガポール)

報告者：石原 えつこ (シンガポール国立大学／シンガポール日本語教師の会, 主催者)

2017年12月8日, シンガポール日本語教育国際会議 2017 (International Conference on Japanese Language Education, Singapore 2017) が, シンガポール国立大学語学教育研究センターとシンガポール日本語教師の会の共催で, シンガポール日本人会館において開催された。

シンガポール日本語教師の会は, シンガポールにおける日本語教育関係者の知識向上・情報交換を目的とし, 2001年に設立され, 会員数は75名である(2018年3月現在)。日本語教育セミナー, 勉強会などの定期開催のみならず, 2015年には, ビジネス日本語研究会と共催で初の国際大会「ビジネス日本語教育国際大会」を開催した。

近年, グローバル化の進展とともに, ASEAN 諸国では, 日系企業のみならず, 地元企業や多国籍企業から, 日本語ができる人材の需要が高まっている。二回目の国際会議となった本会議のテーマは「日本語教育・学習の意義を再考する～垣根を越えた連携～」で, 行政・企業関係者, 教育関係者, 日本語学習者と200名を超える様々な立場の参加者が一堂に会した。基調講演は, 全米日本語教育学会元会長の田伏素子教授より, 「グローバルコンピテンシーと日本語教育：産官学のコラボの試み」というテーマで, アメリカでの事例を紹介いただいた。パネルディスカッションでは, テーマ「グローバル人材に求められる日本語能力とその教育」のもと, 教育専門家, 産業界代表, 日系企業・グローバル企業で活躍する卒業生6名が登壇し, それぞれの立場から知見を共有, 白熱した議論が展開された。beyond 社代表森田英一氏による異文化コミュニケーションワークショップは, 『『日本企業で働く』を改めて考える』というテーマで, 企業, 教育関係者, 日本語学習者の混合グループが編成され, それぞれの立場での本音を「ぶっちゃけトーク」セッションで共有し, お互いの立場を理解した上で, 日本企業の未来像を建設的に話し合い, グループごとに発表した。ASEAN シンポジウムでは「日本語教育とグローバル人材の育成」をテーマに, ASEAN6 カ国の日本語教育代表者が登壇, 各国の日本語教育の経緯と現状, グローバル人材育成のための取り組みや今後の課題などが報告, 議論された。企業と大学生との交流セッションでは, 企業ブースが設置され, 日本語能力を有する人材の採用を検討している企業と, 日本関連ビジネスに興味のある大学生が熱心に交流を深めた。

このように大規模な本国際会議が開催できたのは, 国際交流基金, 在シンガポール日本国大使館のご後援, 資金的には特別協賛企業4社を始め, シンガポール内外の企業, 団体からの協賛の賜物であった。産官学, ASEAN 各国, また, 教師会と大学などがまさに垣根を越えて連携し運営する経験は, 実行委員としても, 深い学びのある国際会議となった。三大学から総勢50名の日本語学習者が, ビジネスマナーを学び, 会場のスタッフとして国際会議を経験できたことも本会議の特色となった。

なお, 本会議の詳しい報告は, 公益社団法人日本語教育学会ウェブサイト内『[世界の日本語教育](#)』及び本会議の[ホームページ](#)に, 掲載されている。ご参照いただきたい。